みんなでつくるまちのプロジェクト

このコーナーは、上毛町第1次総合計画に描かれるまちの将来像「みんなでひらく上毛の未来」を実現するために取り組んでいる事業など、毎月シリーズで紹介するものです。

Vol 7 「支えあうまち」ひとりひとりがまちの真心 ～安全、安心で暮らしやすいまち～ 2

安全・安心で快適な暮らしを守るためには、「防災・消防・救急体制、生活安全対策の充実」が、重要なキーワードとなります。

防災・消防・救急体制の充実に向けて、町では、広域連携の充実や消防団の技術の向上などに取り組んでいますが、地域の皆さん一人ひとりが自主防災意識を持ち、緊急時に備えることも大切です。また、生活安全対策についても、町が行う防犯対策や道路の整備と併せて、子どもからお年寄りまでが安心して生活できるように、地域が主体となった防犯パトロールや交通安全運動が欠かせません。

そのうち今回は、消防団の取り組みや、安全で生活利便性を高める道路整備を紹介します。皆さんも、暮らしの「安全・安心」について、一緒に考えてみませんか。

【生活安全対策】

人にやさしい道づくり

町道下田井・下野地線は、全長2．05㎞で、上毛町大字土佐井と下唐原を結ぶ路線です。本路線沿いには、大平郵便局や築上東中学校、大平保育所などの公共施設があり、子どもたちの通学や地域の生活道路として重要な役割を担っています。

この路線を通行する自転車や歩行者の安全確保のため、平成16年度から国の補助事業を活用して自転車歩行者道設置工事を行っており、本年度で全線工事が完了します。新しくできる歩道には、環境に配慮したLED(発光ダイオード)防犯灯を設置するとともに、水溜まりになりにくい透水性舗装を採用するなど、歩行者にもやさしい道路づくりに取り組んでいます。

●問い合わせ先　建設課　土木係　TEL72－3111(内線191)

◀歩道の整備が進む
町道下田井・下野地線

▼環境に配慮したLED防犯灯

【防災・消防・救急体制の充実】

上毛町消防団の活動

地域の防火・防災の中心的役割を担う上毛町消防団は、団員148名(平成22年12月現在)で、その地域に住んでいる人や働いている人たちによって構成されています。

日頃から、団員一人ひとりがそれぞれ別の仕事を持ちながら、「自分たちのまちは、自分たちの手で守りたい」という一心で、次のような活動を行っています。

・火災発生時の消火活動

いち早く現場にかけつけ、初期消火を実施。被害を最小限にくいとめるように努力しています。

・災害予防訓練、機械器具の点検等

地震・風水害・林野火災といった大規模災害時には、多くの人員が必要となります。その際、地域の実情に詳しい消防団員が先頭に立ち、被害の拡大を防ぐ活動を行いますので、日頃の訓練、機械器具の点検など、有事に備えて万全の体制を整えています。

・火災予防啓発活動

住民指導・巡回広報・特別警戒などの多彩な活動を行っています。

▲消防放水訓練

▲水防演習(月輪工の実演)

火災は、人災。日頃から防火意識を

毎年、全国で5万件を超える火災が起こり、死者の数は、約2千人にのぼっています。火災による人的被害をなくすためには、火災が起きる原因を知り日頃から注意すること、そして、万が一出火したときにどのように行動すべきかを身につけておくことが大切です。火災による被害を出さないため、家族、地域ぐるみで防火意識を高めましょう。

多発している住宅火災。

住宅における防火対策は、家族みんなの心がけと日々の実践がポイントです。どんなところをチェックしたらよいかまとめてみました。

住宅火災 Check! 1 リビング

住宅火災で、一番多い出火場所は、リビングです。
※タバコ、ストーブ、マッチ・ライター、ローソク・灯明が火災原因の上位を占めています。

- 灰皿にはいつも水を入れておく。
- タバコの吸い殻は溜めずにこまめに捨てる。
- ストーブをカーテンや家具に近づけない。
- 洗濯物をストーブの上に干さない。
- 部屋に誰もいないときは、ストーブを必ず消す。
- 石油ストーブは、確実に火が消えてから給油する。
- ストーブのそばにスプレー缶を置かない。
- 電気のコードをカーペットや家具などの下敷きにしない。
- たこ足配線はしない。
- 電力量の大きなエアコンは時々プラグの確認をする。
- 内装材には、不燃性のものを使用する。

住宅火災 Check! 2 キッチン

食事の準備をする時間帯の多発場所が、キッチンです。
※発生した住宅火災のうち約25％がコンロに起因するもので、特に天ぷら油を使用中に発生しています。

- コンロのそばを離れるときは、必ず火を消す。
- コンロのまわりはいつも整理整頓をしておく。
- コンロ使用中は、衣服を火に近づけない注意をする。
- 古くなったゴムホースは使わない。
- コンロは壁から離して置く。
- ガスコンロは、身長にあった高さで使う。
- 換気扇に油汚れを溜めないように。
- 古くなった電気コードは取り替える。
- ガス栓にヒューズコックをつける。

～天ぷら油火災の防止について～

①コンロに火をつけたまま、その場を離れない。
②過熱防止装置の付いたコンロを使用する。
③来客などでその場を離れるときは、コンロの火を消す。

～天ぷら油火災の消火について～

天ぷら油火災が発生した場合、水をかけて消火しようとすると炎が急激に拡大し、周囲に油が飛び散って大やけどをするなど、大変危険です。

①消火器があれば、消火器で消火する。
●この時、消火器の薬剤を鍋に向けて噴射すると、中の油が飛散するので、壁などに向け噴射の勢いを弱めてから、鍋の中心へ移動して消火します。
(エアゾール式の簡易消火具は、直接鍋の中心に向けて噴射して消火します。)
②鍋の蓋をし、空気を遮断することで消火する。
●すぐに蓋を開けると、再び発火する恐れがあるので、コンロを消した後、油温が十分下がるまで、蓋を開けないでください。
③濡れたシーツや大きめのタオルで、鍋全体を覆い、空気を遮断することで消火する。
●この時、慌てて鍋をひっくり返したり、炎でやけどをしないよう注意してください。
●火が消えて安全な状態になってから、ガスの栓を閉めます。
●鍋を屋外に搬送する場合は、やけどに注意してください。

住宅火災 Check! 3 その他

特に、寝室の布団に引火し、多くの方が亡くなっています。

- 寝タバコは絶対にしない。
- 火のついたタバコを置きっぱなしにしない。
- 暖房器具の整備点検を。
- 石油ストーブを片付けるときは、灯油や乾電池を抜き取る。
- ストーブをつけたまま寝ない。
- コタツの中に洗濯物を干さない。
- 電気毛布や電気布団をしまうときに重いものを乗せない。
- コードを引っ張って抜かない。
- アイロンやヘアドライヤーなど使用後はプラグを抜く。
- 器具にあった電球のワット数を使う。
- 避難の経路は整理整頓を。

●問い合わせ先　総務課　総務係
TEL72－3111(内線112)
京築広域圏消防本部
TEL82－0119